



目を世界に!

E G G P L A N T

エッグプラント
 那須ファミリー
 ホームスクール通信
 2005.11.1
 No.16



ザンビアはここです

九月のことですが、教会にアフリカのザンビアから、お客さんを迎えました。コビナ・ムテンダさんです。クリスチャンになってから、イギリスに留学していました。ザンビアに帰ってからは、教会を牧すると同時に、「クリスチャン・リソース・センター」を設立し、現地の福音伝道者たちをサポートしています。具体的には、自転車・蚊帳（現代は死語になりつつあります。蚊を避けて安眠するためです。もちろん、マラリヤのような病気を防ぐためです。）書籍等を援助してあげるので、自転車とはちょっとびっくり。離れた村々に聖書を宣べ伝えるためには、これが一番だそうです。

日本の来て、びっくりしたのは、あまりにも英語をしゃべることができない人が多いということだそうです。（ドキッ！）ザンビアでは、小学校は一年生から英語で授業をしているそうです。「英語は、コミュニケーションの道具で、世界中の人と話すのに便利。」というのですが・・・。

決して裕福ではない国家ですが、多くの人々が聖書の福音から希望と平安を与えられています。かえって日本のように物質があふれた国では、物事の本質から目をそらされがちです。バブル時期に比べれば多少ましになったとは言え、今なお物が豊かになれば心も満たされると考えている人が多いのです。

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」（マタイ四章四節）と聖書は言います。

私たちが造られた創造主の元に立ち返り、そのことばに耳を傾けることこそ、本当の豊かさを得る秘訣です。魂の叫びは世界中どこでも同じです。「病・悲しみ・苦しみ・死別」など普段考えたくない問題の解決策が聖書には啓示されているのです。こうして聖書のことばが、時を超え、国を超え広がっていることを実感させられました。（K）

「ホームスクーラー運動会」

「Yくんたちのためにホームスクーラー運動会ができたらいね。」という一言。それは九月のおいも掘りの帰りの電車の中でのHたちの言葉でした。そしてどんどん話は順調に進み、道は開かれていき、十月十七日（月）に第一回ホームスクーラー運動会を行うことになりました。

主に、M、H、Nの企画、運営です。一ヶ月間、プログラム作成や競技に必要な物の準備等、三人は一生懸命でした。時にはもめることもありましたが、自分たちで作りでできるのでワクワクするような気持ちで進めているのがよく分かりました。

この運動会で集まるのはセファミリー二十七人。みんなクリスチャンファミリーです。ですから競技内容はユニークです。「戻ってきた鳩」「求めなさい与えられます」「みたまの玉入れ」「かめで水を満たしましょう」「ゴリヤテを倒せ」・・・

パソコンで企画書やプログラムを作成したM、ダンボールや新聞紙を使って、ゴリヤテの絵を描いたり、得点表を作ったりしていた範奈、子供たち一人一人に渡すメダルをがんばって作っていたN。そのメダルの裏にはみことばが書かれていました。

「私の目にはあなたは高価で尊い。」

私はあなたを愛している。」 イザヤ書四十三章四節



当日は、天候にも恵まれ、全員参加することができました。「第二回、三回とつづけることができたらいいのね。」とみんなが思うような運動会になりました。

(Y)

「こんなことしました!」行事報告

十月

三日 国立民族学博物館見学

十四日 「恐竜博2005」

十五日 「大阪城の謎探検」コース三回目

十七日 ホームスクーラー運動会

二十二日 日曜学校遠足

(雨天のため大阪市立科学館)

Mの読書「コーナー」

「ああ無情」

ビクトル・ユゴー著

貧しいためにひとつのパンを盗んだことから牢屋に入れられ刑期の終らないうちに脱獄を試みたせいで十九年間の牢獄生活送ったジャン・バルジャン。牢屋を出た後がなばって市長にもなり、人のためにできるかぎりのことを尽くしたのに、警部に追われて、それでありながその警部さえも恨まない。この感動の名作の主人公ジャン・バルジャンという名前は「日本の国で知られている外国文学作品の主人公の中でジャン・バルジャンという名前ほど有名な主人公はいない。」といわれているほど有名で世界中の人に読まれています。

読んでいると泣かずにはいられないこの名作。ぜひ読んでください。



編集後記

初めて企画した運動会。なかなか思うように進行できなかったMは「日曜学校の企画をしているお兄さん・お姉さんたちの苦労がわかった。」とポツリ。自分でやって初めてわかる、人の苦労。貴重なことを学んでくれました。なお、号外3号は、HPで見ることがができます。

「国立民族学博物館」

M

十月三日、お父さんが学校の運動会で休みなので家族みんなで国立民族学博物館(通称みんぱく)に行きました。

前の時行ったのはちょうど一年前なので久しぶりだし、全部をまわると四キロもあるので今回は全部まわりきれなかったので、今度こそはまわりきろうと、とても楽しみでした。

みんぱくに着くと早速みんな集合時間を決めて散らばって行きました。みんぱくでは展示物を映像と音声で解説してくれる「みんぱく電子ガイド」というのを貸してくれて展示物を分かりやすく解説してくれるのでずっと聞いていて、そのせいで一日で三回も電池を交換してもらいました。

この博物館は「ヨーロッパ」「東アジア」など九つの地域にわかれていて、宝物を展示するのではなく、衣食住の生活用品を展示していました。

オセアニアのモアイ像から始まり、アメリカのトーマスボール、ヨーロッパの系車、アフリカの仮面、西アジアの水タバコ、モンゴルのゲル(天幕)などいろいろあって一日あっても足りないほどでした。

ぼくは屋外に建っている韓国の「酒幕」という旅人の休憩所が気に入りました。

展示物を見た後も、世界の様々な生活・文化を紹介する映像展示のビデオテークというのを見ました。約四百も番組があるのでどれを見ようか迷いました。今回なんとか全部を見る事ができませんでした。ですがまだじっくり全部を見てないので、また機会あれば行きたいです。

